

水戸女子高校は、長い歴史の中で学校の仕組みや制服などが変化してきました。しかし、「社会に貢献する女性の育成」という建学精神に基づく指導は変わっていません。

それでは、水戸女子高校の卒業生がどのように社会で頑張っているのでしょうか？卒業生にインタビューをしてみました。

第11回は見目美穂さんです。見目さんは平成18年度に入学し、普通科福祉コース（現福祉実践コース）を選択しました。平成28年度から水戸女子高校の家庭科の教員として、またバレーボール部の顧問として、母校に戻ってきました。

インタビュアー：生徒募集委員会 西内豊人

進路は初志貫徹！

今日はインタビューを受けていただきありがとうございます。早速ですが、水戸女子高校を選んだ理由は何ですか？

中学校時代にバレーボール部の特技特待生*1として、誘いを受けました。水戸女子高校の話聞いた両親がとても気に入り、私も家から近いことと学費もかからないのでいいかなと思い、水戸女子高校への進学を決めました。

水戸女子高校での高校生活は、実際どうでしたか？

部活動は辛かったです。学校生活は学年が上がるごとに楽しくなってきました。福祉コース担当の先生とぶつかったりしたこともありましたが、今となってはいい思い出です。

色々なことがあったのですね（笑）卒業後は茨城キリスト教大学生活科学部へ進学します。いつ頃、進学先を決めましたか？

実は中学2年生の時から決めていました。中学校の保健室の先生が好きで、色々話をしていく中で将来の話になりました。私が「好きなことは、食べることと料理と裁縫」という話をすると、「家庭科の教員がいいのでは」というアドバイスをもらいました。そして、保健室の先生が大学のことで調べてくれて、様々な資格が取れる茨城キリスト教大学がいいのではないかという話になり、頑張って大学に行こうと思っていました。

*1： 現在、特技特待生は特技特待Ⅰ・特技特待Ⅱに分かれています。



バレーボール部の若き顧問として、日々奮闘しています。



合宿中のバレーボール部員との1枚。生徒からも信頼されています。

中学校時代から決めていたのは驚きでした。見目さんはAO入試で受験していますが、苦労したことはありますか？

AOⅠ期で受験した時は自分なりに手応えがあったのですが、結果は落ちてしまい、本当にあせりました。AOⅡ期はプレゼンテーションだったので、毎日学年の先生にお願いして、練習をしました。試験前日は学年主任と担任の先生の前での練習したのですが、本当に緊張しました。その成果もあって、無事合格することが出来ました。

手応えがない方が・・・!?

見目さんの大学生活はどうでしたか？

学部特性上、女子の割合がとても多く、女子高から女子大に進学したような感覚だったので、とても楽しかったです。ただ、取れる資格は全て取得しようと思ったので、勉強はとても大変でした。

取得できる資格は多かったですよね？資格は全て取得できたのですか？

全て資格を取得することが出来ました。正直、高校時代より勉強したと思います(笑) キャンパスライフは充実していましたね。

すごいですね！私が学生時代には挑戦しようとは思わなかったですね(苦笑) 管理栄養士の試験までも合格できてしまうのはすごいですね。

正直、管理栄養士の試験は記念受験で『どうせ受からないだろう』と投げやりになっていました。でも、結果は合格だったのでビックリですね。

大学卒業後、大学院に通いながら、通信制の高校の職員として勤務されていました。この経緯を教えてくださいませんか？

本当は水戸女子高校の家庭科の教員になりたかったのですが、運悪く採用がありませんでした。どこか採用募集をしている高校はないかと探していたら、通信制の高校の募集がありました。試験が5回程度あるのでダメだと思っていましたが、試験をクリアして採用してもらえることになりました。大学院は教授から進学してみないかと声をかけてもらったので、受験をしました。

なんか『ダメだ』って思っている時ほど、良い方向に進んでいますね。人生って、不思議ですね。

母校に戻ってきて…

母校に教員として戻ってきたわけですが、違和感はありますか？

恩師と机を並べている環境や恩師から見目“先生”と言われることなど、もう違和感だらけですよ(笑)

生徒の立場だった見目さんからするとそんなイメージになるでしょうね。これから、教員の立場として、取り組んでいきたいことはありますか？

私も水戸女子高校のOGですし、年齢も近いので、生徒の気持ちも分かります。でも、学生時代に指導を受けたこと・注意されたことは教員になったことで分かる事もあります。生徒たちには『今しか出来ないこと』をきちんと取り組ませ、高校生活を楽しんでほしいと考えています。

本日はありがとうございました。

卒業生が教員として戻ってきてくれることはとても嬉しいことです。その一方で、水戸女子高校の“今”を純粋に評価されるので、気を引き締めていかなければいけないと感じました。見目“先生”、一緒に水戸女子高校を盛り上げていきましょう！

“『社会に貢献する女性』を訪ねて”は年3回の発行を予定しています。次回もお楽しみに。